

BUSINESS REPORT

第92期

中間株主通信

2024年4月1日 ▶ 2024年9月30日

CONTENTS

- P 1 トップインタビュー
- P 5 連結財務ハイライト
- P 6 セグメント別データ
- P 7 株主様アンケート結果
- P 9 新製品のご紹介
- P 10 会社概要／株式情報
- 裏表紙 株主メモ／株主優待情報

トップインタビュー

皆様の生活を豊かにする
ユーモアな食品を提供し、
未来を創る会社へ
邁進してまいります。

代表取締役社長

木村 成克



Q1 社長就任2年目、就任から2024年上半期 までを終えての評価をお聞かせください。

昨年6月に代表取締役社長を拝命し、前任の久野修慈会長が築き上げた経営基盤を継承し、新たな成長・発展をもたらすため、まずはその土台を整えるべく全役職員へ所信表明を行い、自らのマネジメント方針を説明、理解と価値観共有に努め、また幹部社員とともに事業計画、それに基づく人員計画の策定に着手しました。

当第2四半期の業績について

売上高	16,162	百万円	(前年同期比 3.8%増↑)
営業利益	1,422	百万円	(前年同期比 160.1%増↑)
経常利益	1,505	百万円	(前年同期比 26.8%増↑)
親会社株主に帰属 する当四半期純利益	1,055	百万円	(前年同期比 17.0%増↑)

当社は生活の基本である食を通して広く社会に貢献する会社を目指し、「ユーモアな食品を提供し、未来を創る会社へ」をテーマとして、事業計画においては、砂糖・オリゴ糖事業など既存事業の強化、及びお客様のニーズにお応えする新規事業強化を営業政策の中心に据えております。

砂糖事業においては、高甘味度甘味料などの台頭により、砂糖消費量が年々減少傾向にあります。このような状況ではありますが、事業の維持・成長には身体の大事なエネ

通期の見通し

売上高	30,800	百万円	(前期比 2.4%減↓)
営業利益	1,700	百万円	(前期比 13.7%増↑)
経常利益	1,800	百万円	(前期比 15.4%減↓)
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,300	百万円	(前期比 11.9%減↓)

ルギー源である砂糖の正しい知識をお客様へお伝えし消費量の減少に歯止めをかけること、また収益基盤を整えていくことが必要であります。その中で、前期は原料高もある中、お取引先様・お客様に深いご理解を頂きながら、適正価格での販売に努めてまいりました結果、一定の収益改善に至りました。引き続き収益基盤を整えるべく、砂糖市場の再活性化にもチャレンジしてまいります。

また、オリゴ糖事業はお腹の調子を整える特定保健用食品（トクホ）「オリゴのおかげ」シリーズが販売30周年を迎えましたが、おかげさまで今もなお、当社代表製品としてご愛顧いただいております。腸内環境を整えることは身体への相乗効果も期待されることから、昨年美容家IKK O氏をメインキャラクターに起用し、健康意識に加え、美容意識への関心が高い方への販促活動にも取り組むなど、新たな顧客層への販売にも積極的に取り組んでおります。

オリゴ糖市場はコロナ禍を追い風にここ数年、大きく伸張し続けてきましたが、その中で、オリゴ糖に対するお客様のニーズも多様化してまいりました。「オリゴのおかげ」はオリゴ糖製品の中で数少ない特定保健用食品（トクホ）であり、その優れた機能性を広く認知されておりますが、オリゴ糖市場の拡大とともに増加したライトユーザーのニーズにもお応えし、さらなるオリゴ糖事業の成長を図るべく、「さとうきびオリゴ」を新発売いたしました。自然豊かな奄美のさとうきびを原料としたブラウンタイプのフラクトオリゴ糖で、パッケージにも拘り、他社にはないスタイリッシュなデザインに仕上げ、おかげさまでご好評を頂いております。今後とも、「オリゴのおかげ」シリーズとは別のニーズをお持ちのお客様へのアプローチにも注力してまいります。

一方、新規事業につきましては、ビーツ事業の収益化・第3の柱へと成長させるべく、第一弾として発売した『ビーツドリンク』のリニューアルも含め、今後の事業展開について現在検討を進めているところでございます。お客様のニーズを柔軟に取り入れ、工夫改善に努め、ビーツが身体

に良いものとして国内で普及すること、そして当社ビーツ製品の売上の伸張につなげることを目指し、引き続き不転換の覚悟で取り組んでまいります。

なお、先ほど申し上げました「砂糖市場の再活性化」という点においては、砂糖の未来を切り拓くべく生活に欠かせない砂糖の新たな価値を提供すべく様々な機能（保水、防腐、酸化防止等）に着目した新商品開発に取り組んでいる状況でございます。こちらも近々皆様にお示しできることと思っておりますので、今しばらくお待ちいただければ幸いです。

Q2

上期の各事業における営業状況を振り返り、今年度見通しをご説明願います。

砂糖事業につきましては、先ほど申し上げましたとおり、昨年より課題に挙げておりました原料高による販売価格への転嫁が、お取引先様やお客様のご理解・ご協力を得て浸透したことから、一定の収支改善に至りました。販売数量としましては業務用製品がインバウンドや観光需要の回復等を要因として好調に推移したことで、第2四半期まで終え、おかげさまで前年を上回るペースで進捗しております。

一方で、4月以降軟調に推移しておりました海外粗糖相



場は、9月に入り再び上昇基調に転じており、未だ予断を許さぬ状況が続いております。引き続き、各種動向に注視し、利益確保に向け販売強化並びに適正価格での販売に努めてまいります。

バイオ事業につきましては、主力のオリゴ事業ではコロナ禍を経てオリゴ糖ブームにやや落ち着きがみられる中ではありますが、タレント・美容家のIKKO氏を起用したことで、新たに美容意識の高いユーザーの取り込みに成功し、家庭用を中心に堅調に推移しております。また、大容量タイプの販売が想定以上の販売進捗を示しており、コアユーザーは着実に増えていると感触を得ております。今後はコアユーザーへの継続的な働きかけやライトユーザーをコアユーザーへ取り込むための施策を打ち出していくとともに、『さとうきびオリゴ』の拡販にも尽力していきたいと考えています。

※上期の連結業績及び通期の連結業績見通しにつきましては、次の「連結財務ハイライト」「セグメント別データ」をご参照ください。

Q3

当社の成長戦略・ストーリーをどのように描かれていますか？

中期的な当社成長戦略につきまして、株主・投資家の皆様はまだお示しできていない状況であることをお詫び申し上げます。現在当社グループの中長期的なあるべき姿について、わかりやすく具体的にお伝えできるよう準備を進めております。

当社は生活に欠かせない基礎的食品である砂糖を基幹事業とし、さらにはオリゴ糖をはじめとした機能性素材等の製造・販売をしております。これらを安全・安心、安定的に供給することで皆様の健康で安全な食生活に貢献し続け

ることそのものが、サステナブルな当社の事業成長、ひいてはSDGs目標との共鳴・サステナブルな社会の実現につながっていくことと考えております。

主幹事業である砂糖事業は国の制度下にあり、特殊性を有しているとともに海外粗糖相場や為替の影響を大きく受けるため、慎重な分析、複数のプランを想定していく必要がございます。また、砂糖生産においては大規模な設備を有しており、安全安心な製品を安定供給し続けていくためには、適宜適切な設備投資を図っていく必要がございます。こうした点を、わかりやすくお伝えすべく準備を進めておりますので今しばらくお待ち頂けると幸いです。

一方でお客様のニーズにお応えした新商品開発を進めていくこと、これが当社のさらなる事業成長における鍵であると考えており、積極的に経営資源を投下し、事業拡大に取り組んでいく方針でございます。

事業拡大に向けては、例えば『オリゴのおかげ』シリーズを中心として当社製品のブランド力を高めるため、お客様参加型のWEBコミュニティツールの構築に向け、部署横断的なチーム体制を敷き検討しているところでございます。「オリゴといえば塩水港」の地位確立に向け、一層尽力してまいりたいと存じます。

また、新商品開発をはじめ、販促活動や営業強化等各施策を実行していく上では、人的資本の充実が不可欠であります。現在将来を見据えた、人財確保並びに人的体制の整備を着実に進めているところでありますが、こうした点も含め、お示しできるよう準備しております。

さらには、昨年発表しております大東製糖との業務提携の状況につきまして、シナジー創出に向け理想的な協業体制を構築すべく、現在両社部門ごとに具体的な話を進めている状況でございます。両社においては、SDGsの視点に基づく企業価値向上への取り組みも含め、サステナブルな社会の実現に向け協議を進めております。あるいはそれら

活動の中で、社会からのニーズにお応えする新規事業・新商品・新分野へのヒントが得られるかもしれません。その貴重な機会を逃さぬよう目的をもって一つ一つ丁寧に取り組んでまいります。

いずれにしても、研究開発に強みを持つ塩水港精糖と製造加工技術・用途開発に強みをもつ大東製糖、それぞれの特長を活かすことで、サステナブルな製品開発を具現化し、この砂糖業界の裾野を充実させていけると確信しております。

『オリゴのおかげ』の塩水港精糖と含蜜糖のトップシェア企業である大東製糖は、これからもユーモアな食品を提供し、未来を創る会社へ共に邁進してまいります。

Q4 最後に株主・投資家の皆様へメッセージをお願いいたします。

改めまして株主の皆様におかれましては、日頃より、当社グループの事業活動・企業活動に格別のご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は株主・投資家の皆様との長期的な関係づくりといたしまして、安定した配当を実施すること、及び株主様ご優待品として当社製品をお届けすることで、事業へのご理解をいただけるよう、それぞれ毎年実施させていただいております。

また、本年は長期保有優遇制度を新設いたしました。これは、株主様へ実施したアンケート等を通じてたくさんのお声を頂いたこと、また当社並びに当社製品を長く見守っていただける株主様に当社株式を保有頂きたいとの思いからであります。今後とも株主総会等のご意見やアンケート等を通じて株主様とコミュニケーションを図り、IR活動に活かしていきたいと考えております。

最後に、本年当社は台湾での創業から120年を迎えました。

これもひとえに、株主様を始め、お客様、お取引先様、協力会社様等、あらゆるステークホルダーの皆様からの温かいご支援とご厚誼の賜物と深く感謝申し上げます。

創業当時、台湾は日本の統治下にあり経済発展の礎を築くべくさまざまな政策が打ち出された時代ですが、その中心となって政策遂行に大きな役割を果たしたのが後藤新平氏でした。当社は後藤新平氏による砂糖産業振興の中で、台湾鹽水港岸内庄えんすいこうちやうがんないしやうに創立され、鹽水港製糖えんすいこうせいとうと名づけられた経緯があります。

今後とも当社はこの歴史ある社名を大切に、そして社員ひとりひとりがその開拓精神を引き継ぎ、次の時代へ新たな飛躍を目指してまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、引き続き深いご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

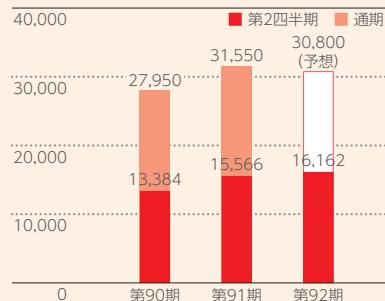
以上



連結財務ハイライト

売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



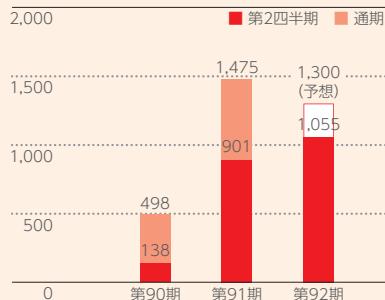
経常利益

(単位:百万円)



親会社株主に帰属する四半期純利益

(単位:百万円)



配当金の推移

(単位:円)



事業別業績

(単位:百万円)

■ 砂糖事業 ■ バイオ事業 ■ その他の事業 ● 営業利益



セグメント別データ



砂糖事業



海外原糖市況は、ニューヨーク市場粗糖先物相場（当限、1ポンド当たり）において22.65セントで始まりまして。5月以降、収穫期に入った砂糖主要生産国ブラジル中南部でサトウキビの圧搾が順調に進んだこと、その後の好調な砂糖輸出ペースを背景に8月中旬に安値17.52セントを付けました。

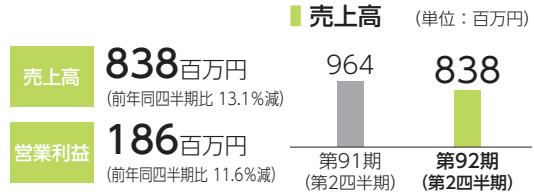
一方で9月中旬に入ると同地域における長引く乾期や火災の影響を受け、収穫見通しが悪化したことから粗糖相場は上昇に転じ、9月下旬に高値23.71セントを付け、結局22.67セントで当中間連結会計期間を終了しました。

国内市中価格（日本経済新聞掲載、上白大袋1kg当たり）は、期初249円～251円で始まり、同水準のまま当中間連結会計期間を終了しました。

精糖およびその他糖類など国内販売では、家庭用製品が低調に推移したものの、業務用製品がインバウンドや観光需要の回復、また夏場の猛暑を追い風に飲料ユーザー向け等への販売も好調に推移し、販売数量・売上高ともに前中間連結会計期間を上回りました。

以上の結果、砂糖事業全体の売上高は15,318百万円（前中間連結会計期間比5.0%増）、セグメント利益は1,897百万円（前中間連結会計期間比106.3%増）となりました。

バイオ事業

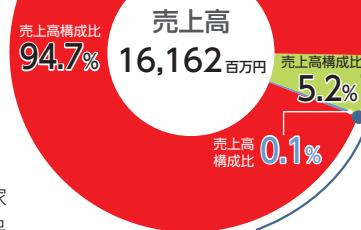


オリゴ糖部門は、オリゴ糖ブームにやや落ち着きが見られる中、「オリゴのおかげ」シリーズにおいては通常タイプが低調に推移したものの、大容量タイプやオリゴ糖含有量を向上させたプレミアムタイプなどコアユーザー向けの販売が好調に推移し、売上高は前年並みにて推移しました。

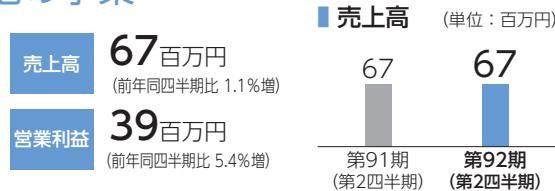
サイクロデキストリン部門は、販売アイテムの集約などにより、売上高は前年を下回りました。

ビーツ部門は、ECサイトでの販売を中心に展開しましたが、売上高は前年を下回りました。

以上の結果、バイオ事業全体の売上高は838百万円（前中間連結会計期間比13.1%減）、セグメント利益は186百万円（前中間連結会計期間比11.6%減）となりました。



その他の事業



その他の事業につきましては、ニューESRビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用に努めました結果、売上高は67百万円（前中間連結会計期間比1.1%増）、セグメント利益は39百万円（前中間連結会計期間比5.4%増）となりました。

株主アンケート結果

2024年6月に実施した「株主アンケート」におきましては、数多くの株主様よりご回答を頂戴いたしました。

ご回答いただきました株主の皆様におかれましては、ご多用の中ご協力いただきまして、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

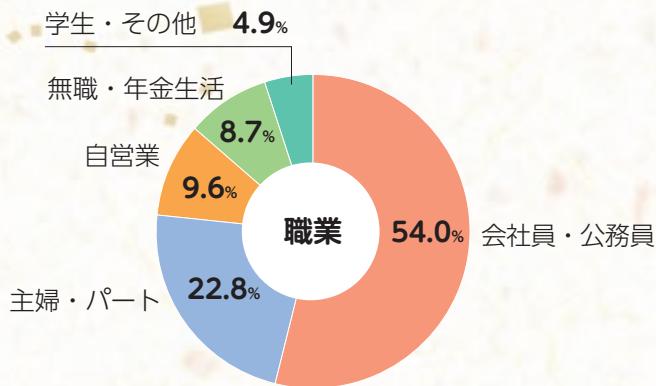
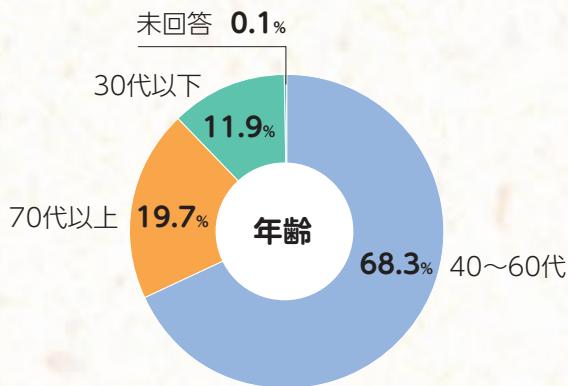
なお、頂戴いたしました株主様からの貴重なご意見・ご要望等につきましては、今後の経営やIR活動等の参考にさせていただきます。

以下に、今回の「株主アンケート」の結果についてご報告させていただきます。



「株主アンケート」概要

アンケート方法	WEBでのアンケートを実施（「中間株主通信」に掲載）
アンケート対象者	2024年3月31日時点 株主名簿記載の株主様
アンケート対象人数	12,057名
アンケートご回答数	4,081名
アンケートご回答率	33.8%



株主様からの声

安定した事業の継続をお願いします。



長期保有優待制度になり以前より
ランクアップした優待で満足しています。



オリゴのおかげは世間に知れ渡っていますが、
ビーツはまだまだの様に思います。とても
栄養価の有るアレンジの効くビーツをもっと
知らしめて頂けたらと思います。



美味しくて健康に良いものを
これからも作ってください！

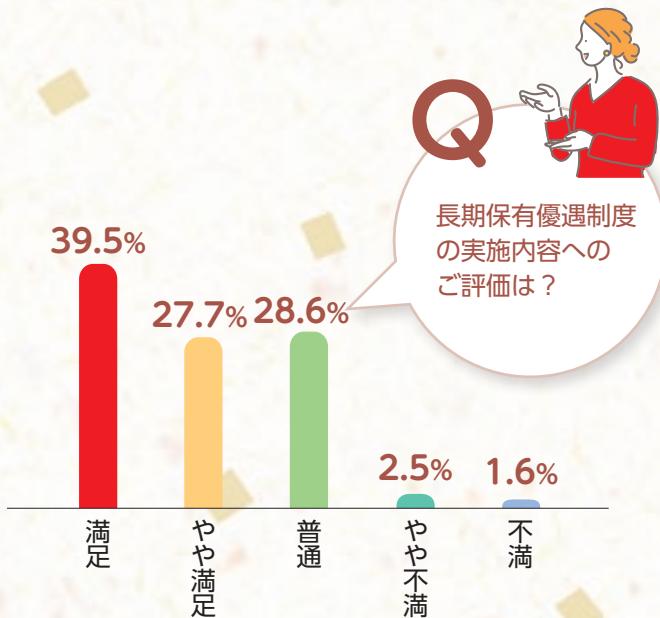
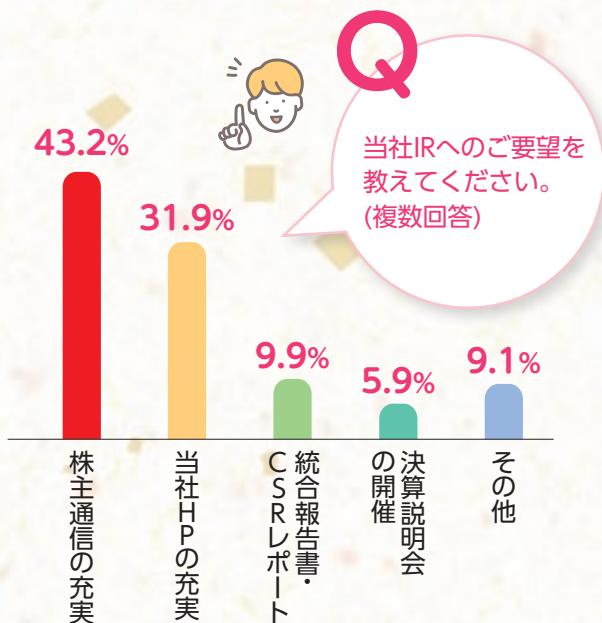
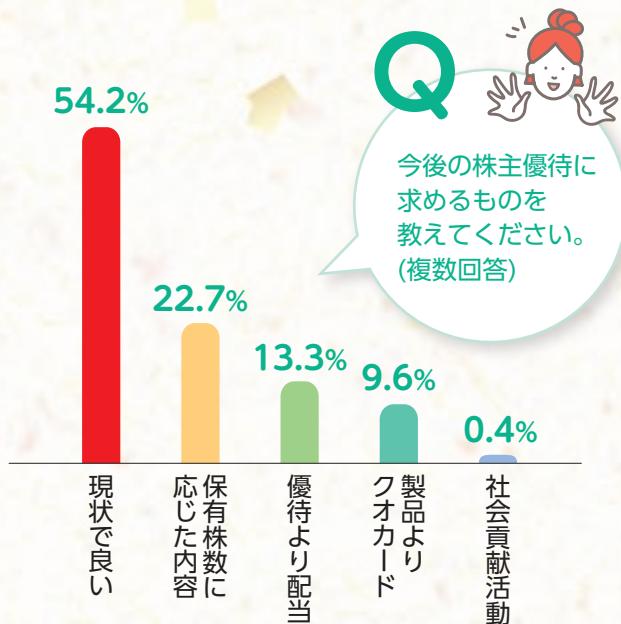
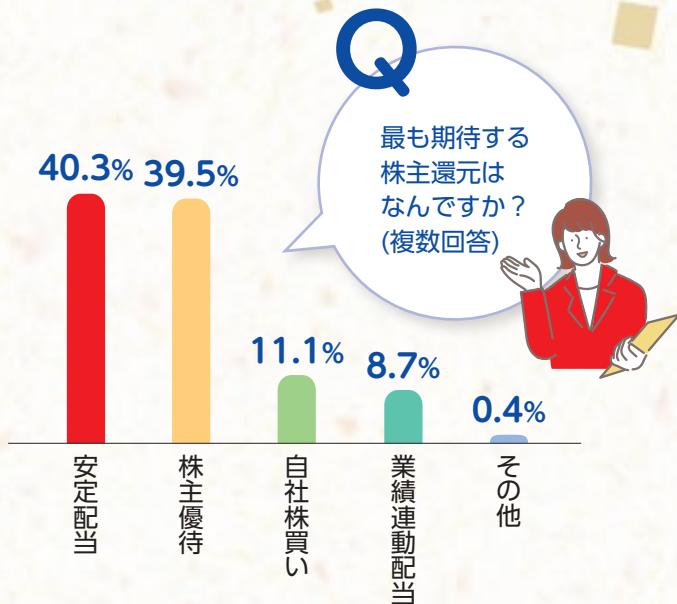


オリゴのおかげをいつも使っています。
家族の健康を支えていただきありがとうございます！



黒糖のオリゴがあったらいいなと思います。







奄美の豊かな自然の恵みを暮らしへ、からだへ

『奄美うまれの さとうきびオリゴ』



自然のおいしさ

ミネラル豊富な
徳之島の大地が育んだ、
さとうきびだけを使用しました

奄美群島の中央部に位置する徳之島。世界自然遺産に登録された豊かな自然と、ミネラル豊富な大地が育んださとうきびから生まれた、徳之島原料100%のフラクトオリゴ糖シロップです。



毎日の食卓に

適度なコクとやさしい甘さが、
あらゆる料理をおいしくする

さとうきび本来のおいしさにこだわった、適度なコクとやさしい甘さでブラウンタイプのオリゴ糖です。素材の味を邪魔しないので、どんな料理にも相性が良く、毎日の食事からちょっと素敵なライフスタイルをお手伝いします。



ビフィズス菌を増やす

いつもの料理に加えるだけで、
ちょっとからだにいいことを

さとうきびオリゴはフラクトオリゴ糖を豊富に含みます。フラクトオリゴ糖は野菜や果物にも含まれる難消化性の糖質で、ビフィズス菌を増やすことを助けます。



会社概要

CORPORATE INFORMATION

商号	塩水港精糖株式会社 ENSUIKO SUGAR REFINING CO.,LTD.
本社	東京都中央区日本橋堀留町二丁目9番6号 03-3249-2381(代)
創立	明治37年2月
設立	昭和25年7月
資本金	17億5,000万円
事業所	糖質研究所 関西営業所 工場 / 横浜共同生産工場(太平洋製糖株) 大阪共同生産工場(関西製糖株)
関係会社	(株)パールエース、(株)パールフーズ、太平洋製糖(株)、 関西製糖(株)、南西糖業(株)、(株)ナルミヤ
株式上場	東京証券取引所スタンダード市場
主要商品	精製糖(グラニュー糖、上白糖、三温糖、液糖他) 乳糖果糖オリゴ糖 (オリゴのおかげ、オリゴのおかげダブルサポート) サイクロデキストリン (デキシーパール、イソエリート、デキシーエース他) サラシア属植物エキス末 ビーツ関連商材

取締役及び監査役

代表取締役会長	久野 修慈	取締役	及川 智明
代表取締役社長	木村 成克	取締役	濱保 健一
専務取締役	酒井 英喜	取締役	田畑 貴史
常務取締役	波多野 雅	取締役(社外)	三和 彦幸
常務取締役	伊藤 哲也	取締役(社外)	加藤 敦広
常務取締役	小田 俊一	常勤監査役	山下 裕司
取締役	杉山 拓也	監査役(社外)	渡部 以光
取締役	和田守 真	監査役(社外)	金澤 賢一

株式情報

STOCK INFORMATION

(2024年9月30日現在)

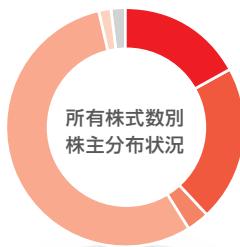
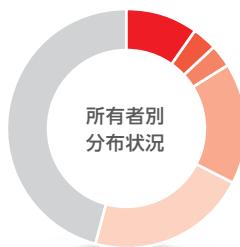
株式の状況

- 発行可能株式総数 80,000,000株
- 発行済株式の総数 35,000,000株
(自己株式7,553,429株を含む。)
- 当第2四半期末株主数 13,795名

大株主

No	株主名	所有株数(千株)	持株比率(%)
1	大東製糖株式会社	4,060	14.79
2	株式会社みずほ銀行	1,353	4.93
3	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	632	2.30
4	三菱UFJ信託銀行株式会社	603	2.20
5	株式会社榎本武平商店	550	2.00
6	大東通商株式会社	500	1.82
7	山本 知宏	429	1.56
8	東京海上日動火災保険株式会社	340	1.24
9	岡三証券株式会社	339	1.24
10	株式会社SBI証券	273	1.00

(注) 持株比率は自己株式(7,553,429株)を控除して計算しております。



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
- 利益配当金の株主確定日 毎年3月31日および中間配当の支払いを行うときは9月30日
- 基準日 定時株主総会については3月31日
上記の他必要がある場合は予め公告して臨時に基準日を設けることがあります。
- 定時株主総会 毎年6月
- 公告・IR情報掲載URL <https://www.ensuiko.co.jp/>
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社
- 事務取扱場所等

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話でのお問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル) (土・日・祝日を除く9:00～17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受け取り方法の変更等)		みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行およびみずほ銀行の本店および全国各支店	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買は出来ません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

株主優待情報

決算期末(3月31日)現在の株主の方に対し、年1回当社製品を以下の基準により送付いたします。

対象株主

毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された1,000株以上を保有されている株主様。

送付時期

毎年7月上旬に送付を予定しております。

送付先

毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された住所に送付しております。

1,000株以上 保有3年未満



3,500円相当製品例
オリゴのおかげ 300g×4本
その他自社製品

1,000株以上 保有3年以上



5,000円相当製品例
オリゴのおかげ 300g×4本
オリゴのおかげプレミアム30 300g×2本
その他自社に関連する製品

(注)「保有期間3年以上」とは、毎年3月31日現在において、当社の株主名簿に同一株主番号で、3年以上継続して記載または記録されている株主さま(同一の株主番号で3月31日現在、9月30日現在の株主名簿に、7回以上継続して記載または記録されている株主さま)といたします。